

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「秋の深まり」 教材名「秋の深まり」

2 単元の目標

語句の意味や語感を確かめ、季節の様子を表す文章の中で使うことができる。伝えたい情景に合う語句かを確かめ、表現を選び直して文章を整えることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語句の意味や語感を確かめ、季節の様子を表す文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「書くこと」において、伝えたい情景に合う語句かを確かめ、表現を選び直して文章を整えている。（B(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

季節を表す語の意味と語感を比べ、伝えたい情景に合う言葉を選ぶ。文学的な言葉を多く入れることより、観察と表現が対応することを重視する。学習指導要領のB(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

自分の観察記録と辞書の意味を並べ、使う語の候補を比べる。独自例「冷たい風が通る」と「乾いた風が通る」では何を感じた場面かを説明し、語を替える根拠を明らかにする。秋の観察では、葉の色と動き、夕方の光など自分が確かめられた変化を選び、色を表す語と動きを表す語の働きを比べる。おおむね満足できる状況は、伝えたい情景に合う語句かを確かめ、表現を選び直して文章を整えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○観察記録から季節を示す特徴を選ぶ。秋に見聞きした変化から、色と動きを表す語を選び、使う理由を確かめる。情景が伝わる文章を書く。言い換えた場合と比較して表現を整える。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

伝えたい情景に合う語句かを確認め、表現を選び直して文章を整えることができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	使う教材を確認め、今日比べる言葉や表現への自分の考えを短く書く。 ○「似た季節の言葉でも、読み手が想像する景色はどう変わりますか」 【めあて】季節を表す語の意味と語感を比べ、伝えたい情景に合う言葉を選ぶ。 〈予想される児童の反応〉 ・静けさを表す語にすると音の少ない景色になる。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「似た季節の言葉でも、読み手が想像する景色はどう変わりますか」 観察記録から季節を示す特徴を選ぶ。秋に見聞きた変化から、色と動きを表す語を選び、使う理由を確認める。情景が伝わる文章を書く。言い換えた場合と比較して表現を整える。 観察の記録、言い換えの候補、語を選んだ理由を添えた短い文章。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・静けさを表す語にすると音の少ない景色になる。 ・動きを示す語で時間の変化を伝えたい。 ・辞書の意味と実際に見た様子が合う語を残した。	自分の観察記録と辞書の意味を並べ、使う語の候補を比べる。独自例「冷たい風が通る」と「乾いた風が通る」では何を感じた場面かを説明し、語を替える根拠を明らかにする。秋の観察では、葉の色と動き、夕方の光など自分が確かめられた変化を選び、色を表す語と動きを表す語の働きを比べる。 想定するつまずき：難しい語ほどよいと考える、意味を調べず語感だけで用いる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 伝えたい情景に合う語句かを確認め、表現を選び直して文章を整えている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・辞書の意味と実際に見た様子が合う語を残した。	まとめの文を先に与えて写させず、本時に扱った語や自分の例を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。今後の国語学習や日常の読み書きでも、今日確かめたことを使えるよう記録を残す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「似た季節の言葉でも、読み手が想像する景色はどう変わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

